

らはいのうた

(十二札の意識)

やどれる相いとたえに

悪魔・外道もくじきます

阿弥陀ほとけをおがまん

天人ともに仰ぎみる

み徳すぐれてならびなく

阿弥陀ほとけの尊しや

虚空のごと澄みわたり

安けき国にかのほとけ

思いのままに救います

あまたたの子らを率います

阿弥陀ほとけをおがまん

げだかき姿須弥のごと

つねにわれらを撮め取る

しずけき歩み象に似て

とうとき願に生きたまい

やさしきまなこ澄みとおる

菩薩・魔性もほめたとう

阿弥陀ほとけをおがまん

阿弥陀ほとけをおがまん

み顔うるわし満月よ

黄金の池にひらく花

みいずは月日に超えすぐれ

これぞ良き徳つみて成る

み声は俱翅羅にさも似たる

その蓮座に山と坐す

阿弥陀ほとけをおがまん

阿弥陀ほとけをおがまん

観音薩埵の冠に

ここにつごえるほとけ子ら

くすしき力あらわして

み顔を尊み仰ぐなる

阿弥陀ほとけをおがまん

ものみな空しあだなれや

水面の月に電・影・露

まぼろしの身と説きたもつ

阿弥陀ほとけをおがまん

悪の名聞かぬかの国よ

道妨ぐるおそれなく

もろびとあつく敬える

阿弥陀ほとけをおがまん

このみほとけのはぐくみに

まがれるたぐいさらになく

さどりの道に入らしむる

阿弥陀ほとけをおがまん

われみほとけのいさおしを

たたえまつりて身に得たる

はかりなき徳もろびとに

わかちて往かんかのみ国

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

ほとけのみ名を聞きひらき

こよなき信をめぐまれて

よろこぶごころ身に得れば

さとりかならずさだまらん